

市政運営の所信

平成28年3月2日

はじめに、

平成28年第1回定例会の開会にあたりまして、今後の市政運営に関する所信を申し上げます。

去る2月14日に行われました市長選挙に際しましては、議員の皆さまをはじめ、市民の皆さまの力強いご支援や温かい励ましにより、再び八幡市政の舵取りを務めさせていただくことが叶いました。この場をお借りいたしまして、改めて厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。

重責に身の引き締まる思いではございますが、市民の皆さまの大きな期待と信頼に応えられるよう、全力を傾注してまいります。今後ともご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

先の4年間、「市民との協働」を基本に、国、京都府と連携し、また、行財政改革に取り組みながら、子育て、健康、安心・安全のまちづくりに重点を置き、市政を進めてまいりました。皆さまのご理解とご協力により、また、先人が築かれました実績をもとに、取り組みを進めてまいりましたが、道半ばであります。2期目の市政を担当させていただくことが叶い、これらの取り組みとともに、国・京都府との連携の下、将来を見据えた本市のグランドデザインを描いてまいります。

それでは、市政を取りまく諸課題について申し述べます。

平成26年11月、「まち・ひと・しごと創生法」が制定され、直面する人口減少を克服し、地域を創生していくために、国、都道府県、市町村、事業者、市民等が総力を挙げて取り組むことになりました。

そのことから、本市におきましても、人口の現状分析と将来展望を行い、それにより浮かび上がった課題に対する方策を、いかに講じていくかが問われているところでございます。

ご存知のとおり、本市の人口は、昭和40年代後半からの男山団地の開発を主因とし、全国屈指の人口急増団体となり、市制を施行することとなりました。平成7年度の国勢調査人口75,779人をピークとして、その後7万3千人まで人口は減少いたしました。美濃山、欽明台地域の開発により、平成17年度の国勢調査人口では、一時的に人口の増加が見られ、74,252人まで回復いたしました。しかし、平成27年度の国勢調査人口（速報値）では、72,748人と、また減少傾向に転じております。

本市は、京都、大阪の大都市圏への通勤に至極便利なベッドタウンとしての機能を有しており、歳入の根幹はサラリーマン所得による個人市民税収入であります。人口減少、高齢社会が進むと納税義務者が減少し、市税収入が大幅に減収することが予測されます。さらに、高齢社会は、医療費、社会保障経費を大幅に上昇させ、市の財政運営を非常に厳しくさせる要因となります。

優良住宅用地の供給余力が少ない八幡市の現状からは、ある程度の人口減少、少子高齢化は、受け入れざるを得ないと思っております。しかし、将来にわたり、地域経済と都市機能を堅持していくためには、これから如何に人口減少幅を抑制していくのかが、最大の課題であります。こうした課題を解消していくための基本的な視点としては、

1つには 出生率向上

2つには 転出入者対策

3つには 持続可能な行財政運営

4つには 国宝石清水八幡宮をはじめ、本市の豊かな自然と歴史
文化を活用した交流人口の拡大

を挙げることができるのではないかと考えております。

こうした視点を踏まえ、これからのまちづくりを進めてまいります。

まず、一つには「子どもの未来を創生する」ことです。

八幡の未来をつくる子どもたちが、次代を生きる力を育むとともに、夢と志を抱き、それらに挑戦したいと思うような力を育成したいと考えております。また、待機児童がないといったような、本市の子育て環境の魅力を発信し、八幡で子育てしたい、しつづけたいと思う人を増やしていきたいと考えております。

さらには、出産から子育てまで一貫したサポートを充実させ、子育てが楽しい、子育ては八幡市でとっていただけるような取り組みを進めてまいります。

二つには、「健康」で「幸せ」を感じる「健幸都市の創生」です。

八幡の豊かな自然や歴史文化の中で暮らすことで健幸になれる、そんなまちづくり「スマートウェルネスシティやわた」を目指します。

健幸づくりを進めていくうえで、その土台となります計画を策定するとともに、高齢者の皆さまの健康寿命を延ばすため、誰もが気軽に健幸づくりに取り組める運動や食事等のプログラムの開発や提供を進

めたいと考えております。そして、やわた健幸マイレージの創設、歩道のバリアフリーや景観整備を行い、自然と出歩きたくなるまちづくりを進めていきたいと思っております。

三つには、「文化と暮らしの創生」です。

本年2月9日に、石清水八幡宮が国宝に指定されました。その他にも八幡には魅力的な文化や暮らしがあります。しかし、それら市の財産の磨き上げや情報発信が十分ではないと思っております。市の魅力をさらに高め、世界や日本中に誇れるよう、様々な面からチャレンジしていきたいと思っております。

まずは観光都市へのチャレンジです。先ほども述べましたが、石清水八幡宮が国宝になるなど、本市の観光には追い風が吹いています。

この好機を活かし、松花堂などのお茶に関する文化資源、三川合流域や流れ橋などの観光資源等をつなぎ、観光消費額が上がる環境整備を進めたいと思っております。

さらには、府道八幡インター線、府道内里城陽線の整備、橋本駅周辺拠点整備、外国人向けのサインやwi-fiの整備など交通アクセスとおもてなし環境の整備を進めなければなりません。

一方では、八幡での創業支援を充実していくとともに、「農業」の活性化に向けた次代の農業を支える人への応援も充実してまいります。

これらを総括的に申し上げますと、子どもが楽しくいきいきと育ち、市民誰もが健康で幸せに暮らせるまちにするとともに、市民の誇りである豊かな自然と歴史文化にさらに磨きをかけ、魅力を発信してまい

ります。そして、これらの取り組みを通じて、「まち」を形づくる「ひと」が育ち、「ひと」と「ひと」との絆と交流の中から、新たな「仕事」が創生されるよう、市民と協働しながら、国、京都府と協調、連携し、(仮称)八幡インタージャンクションのポテンシャルを活用したまちづくりなど、将来を見据えたグランドデザインを描いていきたいと思っております。

以上が、2期目に臨む私の所信でございます。

2月27日から2期目の任期を迎えましたことから、本定例会にご提案を申しあげております平成28年度当初予算案につきましては、骨格的な予算案としておりますが、将来を見据え複雑多岐にわたる市民ニーズや新たな行政課題に対応しながらも、効率的な自治体経営を進めていくために、組織の再編には早期に取り組むこととしております。

本市が直面します課題や取り組むべき施策など、市民の皆さまとお約束したことにつきましては、今後検討を重ね6月に予定されています第2回定例会にご提案を申し上げる所存でございます。

市議会の皆さま、市民の皆さまの温かいご支援とご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。

八幡市長

堀口文昭